

駿河路や

花摘り  
茶の匂ひ

本隠れて

茶摘り聞くや  
ほととぎす

馬に寝て

残夢月遠し  
茶のけより

漂泊の俳人

# 松尾芭蕉



日時

十一月七日（水）

芭蕉の概説と作品鑑賞

十一月十四日（水）

『笈の小文』『笈日記』とまとめ

両日とも 十時～十一時三十分

場所

幸田町立図書館 二階学習閲覧室

定員

三十六名

受講料

五〇〇円

申込み

十月七日（日）午前九時から

カウンター、または電話で受け付けします。

（受講料を添えてお申込みください）

電話 〇五六四―六三―〇〇〇一

『奥の細道』の有名な書き出し 「月日は百代の

過客にして、行かふ年も又旅人也」に象徴される

日常と非日常世界の対比。そこに想起される表現

者としての旅の意味。風狂、不易流行、造化随順

（自然との一体性）といった俳諧精神。『猿蓑』

の「初しぐれ猿も小蓑をほしげ也」に表された「か

るみ」の芸境などを学びます。また「冬の日や馬

上に氷る影法師」の『笈の小文』、「木枯に岩吹と

がる杉間かな」など三河にゆかりの深い作品も鑑

賞します。

愛知大学名誉教授 黒柳 孝夫

